幕末明治の写真師列伝　第百三十三回　宮下欽　その五十一

宮下欽については、梅本貞雄、小林秀二郎編『日本写真界の物故功労者顕彰録』（日本寫眞協會、昭和27年）には、わずかに以下のようにしか書かれていない。

「信州の人。東上して横山松三郎に写真術を学んだ。後名古屋に写真館を開いた。写真集がある。」

では、宮下欽は東京池之端の通天楼から、いつ独立したのであろうか？名古屋写真師会編『名古屋写真師会小史』（名古屋写真師会、平成2年）では、宮下欽が名古屋で開業したのは、

「　寫眞廣告

這回鈴木眞一ノ寫眞場並器械原板共悉皆讓受ノ上同所ニ於テ開業仕候間四方愛顧ノ諸君陸續御注文アラン」乞

明治十二年三月　　名古屋本町三丁目

宮下欽　謹白　」

という、この『愛知新聞』の明治12年（1879）3月の広告記事を根拠に、「この人は、愛知新聞紙上、明治十二年三月に、開業した事を示している。」とし、また、横井商店編『中京写壇懐古録』（横井商店、昭和23年）の座談会「営業写真の思い出話」で、海部幸之進は「宮下が一番古く、生板が上手で名を売った」と述べているが、ここでははっきりとした開業年は述べていない。

さらに、『中京写壇懐古録』（横井商店版　松谷綿次郎先生記）明治二十三年十月所収、「記憶を辿りて」（海部幸之進記）では、

「名古屋に初めて写真館が出来たのは明治十年頃

（前略）

本町に　　宮下欽（本町三丁目）処方集M13発行コロジオン

（中略）

海部幸之進氏は明治二十四年写真に入る。当時既に写真師会はあった。

会長　宮下欽

副会長　水谷鏡

会員は二十名位」

としている。

しかしながら、これは間違っている。

宮下欽の長男で明治3年（1870）に生まれた宮下守雄が、東京エーヤブラシ寫眞修正業組合の圖案師・馬淵錄太郎に話した内容（略歴）の中に、「（前略）八年名古屋市に於て寫眞業を開設せらる（後略）」（馬淵錄太郎「故宮下評議員を悼む」）とある。

また、内国勧業博覧会事務局編『明治十年内国勧業博覧会出品目録』（内国勧業博覧会事務局、明治10年）によれば、愛知県の部に、

「第四類　寫眞額

（一）名古屋城圖尾張國愛知郡名古屋長者町

（二）春日井郡瀬戸村陶器製造所圖

（三）三河國岡崎矢作橋圖　（同町　宮下　欽

寫眞額

（一）名古屋城天守圖名古屋本町

（二）尾張國知多郡常滑村陶器製造場圖

（三）愛知中學校圖

（四）愛知師範學校圖

（五）名古屋郵便局圖

（六）尾張國春日井郡瀬戸村陶器製造所圖（同町　鈴木佳三郎」とあり、宮下欽が名古屋城、瀬戸村陶器製造所、矢作橋の三点の写真を出品していることがこれで判る。

内国勧業博覧会事務局編『明治十年内国勧業博覧会審査評語2（内国勧業博覧会事務局、明治10年）によれば、「第四類　写真術」の項で、「愛知縣　褒状　影畫　瀬戸村陶製ノ圖　尾張國愛知郡名古屋南桑名町　鈴木佳三郎　同　本町　宮下欽　陶器製造ノ光景ヲ示シ技術モ亦錬熟ナリ」と、鈴木佳三郎と宮下欽の名がある。

（森重和雄）